の前に軍刀を振りかざして玉砕する日本軍の声を遠くで聞く。氏はハワイで捕虜生活をするが、アメリカ軍の豊かな人間性に感嘆し、日本の敗北を納得する。そして、捕虜生活中にこの手記の草稿を書いたらしい。

本の帯カバーに「激戦地における日本軍の定見なき戦闘と兵士の生活」と書いてある。私はあの欠乏と戦闘の中でこれだけ冷静にものを見る精神に驚かされた。新聞記者だった醒めた眼がそうさせたのであろう。氏は再三の戦争体験の執筆依頼を固く断わってきた、又、家庭でも戦争について語ることはなかったという。氏の死後、ようやくこの本が公表された。思うに、アメリカ軍に投降して生き延びた氏にとって、無定見な上官に引きづられ無為に玉砕していった戦友の死は余りに重かったに違いない。戦死者に言葉はない。彼らの言葉にならなかった思いをどう受けとめるかは、生きている者の責任である。

ー牧師室からー

朝日新聞記者であった横田正平氏の「玉砕しなかった兵士の手記」という本が、氏の死後に出版された。兵士の目から見た日本軍の有様を興味深く読んだ。氏は一兵卒として満州に招集され、その後サイパンに転戦させられる。その輸送船が魚雷で沈められ、海を漂い九死に一生を得る。サイパンからグアムに転属させられる。氏は満州での日本軍の横暴と中国人への虐殺を見る。兵器と食料不足に苦しんだサイパンとグアムでの日本軍の軍規の荒廃に絶望する。膨大な物量と優れた科学力をもってグアムを包囲するアメリカ軍に友と二人で生死をかけて投降する。その夜、重兵器を持つアメリカ軍

週　報

１９８９年２月１２日　復活前第６主日

巻　９　　４６号

１９８８年度教会主題

「真理の御言に聴き、従う」

あなたの御言は真理であります。あなたがわたしを世につかわされたように、わたしも彼らを世につかわしました。また彼らが真理によって聖別されるように、彼らのためわたし自身を聖別いたします。

ヨハネによる福音書１７章１７節ｂ－１９節

日本キリスト教団　横浜港南台教会

会　堂　〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

☎ 045-833-5323

振替　横浜 9-13394

牧師宅　〒235 横浜市磯子区洋光台 5丁目-6-3-304

☎ 045-833-6616

牧師　秋　吉　隆　雄